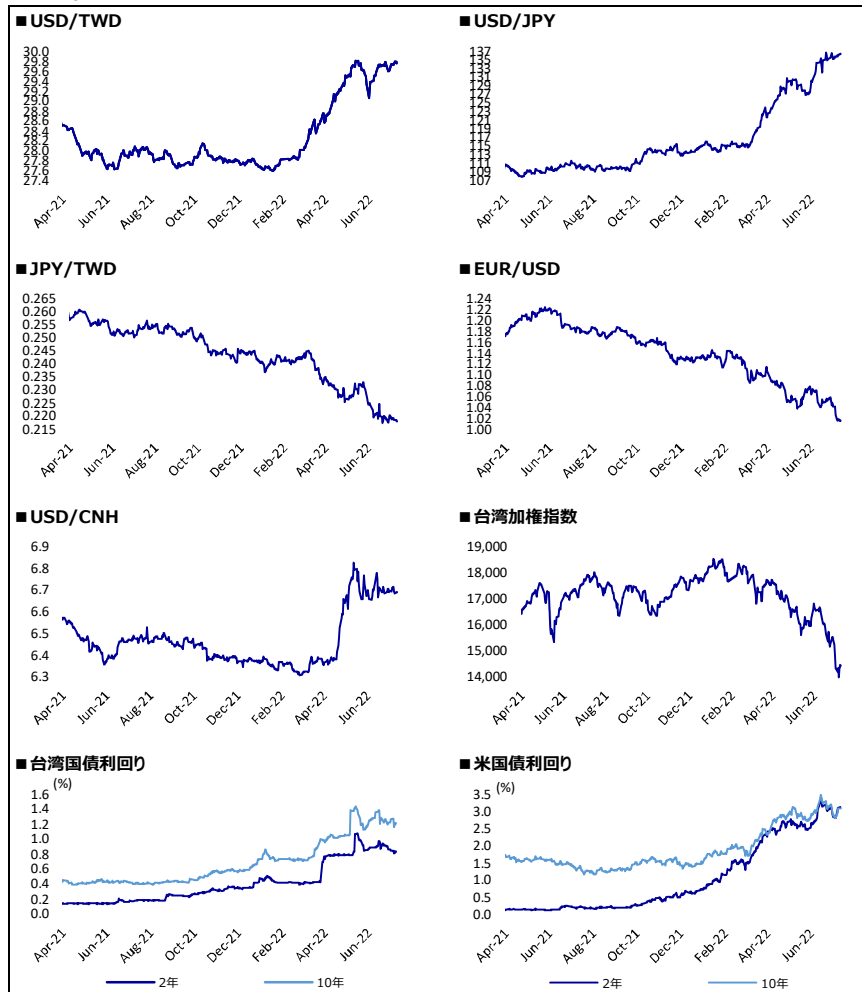


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/4は29.790でオープン。外国人投資家の売り越した株式の資金や受取配当の送金のため台湾ドルが売られるも、29.80付近では台湾ドル買いが入り上値が押さえられたため、短期的には29.8を超えないとみてか、輸出企業がドルを売りに走り、29.74付近まで下落。7/5は前日の流れを受けて、一時29.727まで下落したが、外国人投資家の海外への送金は続いており、じりじり上昇し、29.80手前まで上昇。7/6も引き続き、外国人投資家の海外への送金需要から29.83付近まで上昇。7/7には一時29.831まで上昇したが、台湾株が買われると一時29.777台まで戻した。7/8は29.75付近まで下落したが、輸入企業のドル買い需要等から29.79付近まで上昇。最終的に先週比0.1%ドル高台湾ドル安の29.782で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は189.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初7/4は135.36でオープン後、時間外で米株先物が下落したことを受け売られると一時134.80まで下落。その後は135円台後半まで戻したものの、米国休場の中、動意に乏しく狭いレンジで推移。7/5はバイデン政権による対中関税の一部撤廃に対する期待からリスクオンの流れとなると136円台前半まで上昇。しかし、欧州でのガス供給への警戒感が高まり、欧州株、ユーロドルが下落すると、ドル円は135円台半ばまで下落。7/6は欧州景気後退懸念から軟調なユーロにつられてドル円は再度135円割れに。しかし、低下していた米長期金利が上昇に転じたことや米6月ISM非製造業がヘッドラインが予想を上回ったことからドル円は一時136円台まで上昇した。7/7は実需フローから135円台半ばまで下落するも、FED高官からタカ派な発言がみられたことからドル円は上昇し、136円台前半で推移。7/8は安倍元首相が演説中に倒れるとの報道を受け、一時135円台前半まで下落するが徐々に落ち着きを取り戻し、135円台後半で推移。その後発表された米雇用統計は非農業部門雇用者数が予想を大きく上回り、平均時給が前回分が上方修正されたこともあり、米金利が上昇するとドル円も一時136.56まで上昇。買い一巡後は135円台後半まで戻したが、最終的に先週比0.7%ドル高円安の136.12で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.650-29.900
先週は上値として押さえられていた29.80を超えて推移する場面が散見された。今週は米経済指標に左右される展開と見込むが、リセッションへの警戒感が高まる中、直近高値を追う展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：134.00-138.00
今週は米6月CPIの発表を控えており、物価の上昇が止まらないようであれば、利上げペースの加速期待からドルが買われる展開となるであろう。また、6月のFOMCで注目の集まったミシガン大消費者信頼感指数の発表も控えており、経済指標を受けた荒い値動きに警戒したい。

今週の予定

7/11 (MON)	
7/12 (TUE)	
7/13 (WED)	米6月CPI、米バージュック公表
7/14 (THU)	米6月PPI
7/15 (FRI)	米6月小売売上高、米6月鉱工業生産、米7月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。